

診察室や処置室におけるリモート見学や収録・教材化のために

研究参加へのお願い

このたびは研究参加のご検討をいただきありがとうございます。
説明用パンフレット内容についてさらに詳しく説明いたします。

医学生はじめ医療関係者の育成も 大学病院の大切な役割です。

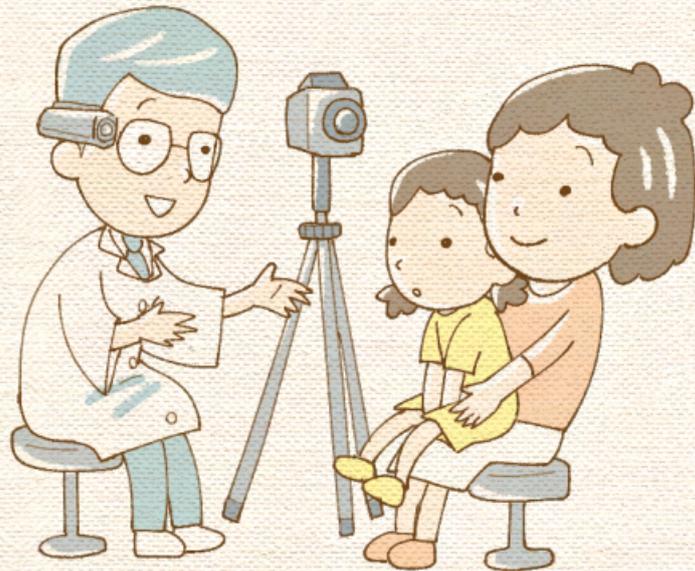
患者様におかれましては、医療を受けるご負担の中にありながら、
日ごろから医学生はじめ医療関係者の育成(見学や実習)にご協力をいただきありがとうございます。
その見学や実習ができるだけ患者様の新たな負担にならないよう様々な工夫を考える中で、
コロナ禍もあり、リモートにできる部分はリモートに、リアルタイムでなくてもよい部分は映像教材化に、
医学部長の許可を得て医学教育研究として取り組むこととなりました。
ぜひ本研究の趣旨をご理解いただき、ご参加にご同意いただきますようお願い申し上げます。
なお、参加にご同意をいただかなくとも患者様に不利益は一切ありません。

患者様へのお願いすること
診察・処置を撮影・送信・記録
させていただきます。

ご協力いただける場合は、同意書にサインをお願いいたします。
1回のご同意での撮影はその時の診察や処置1回だけです。

撮影

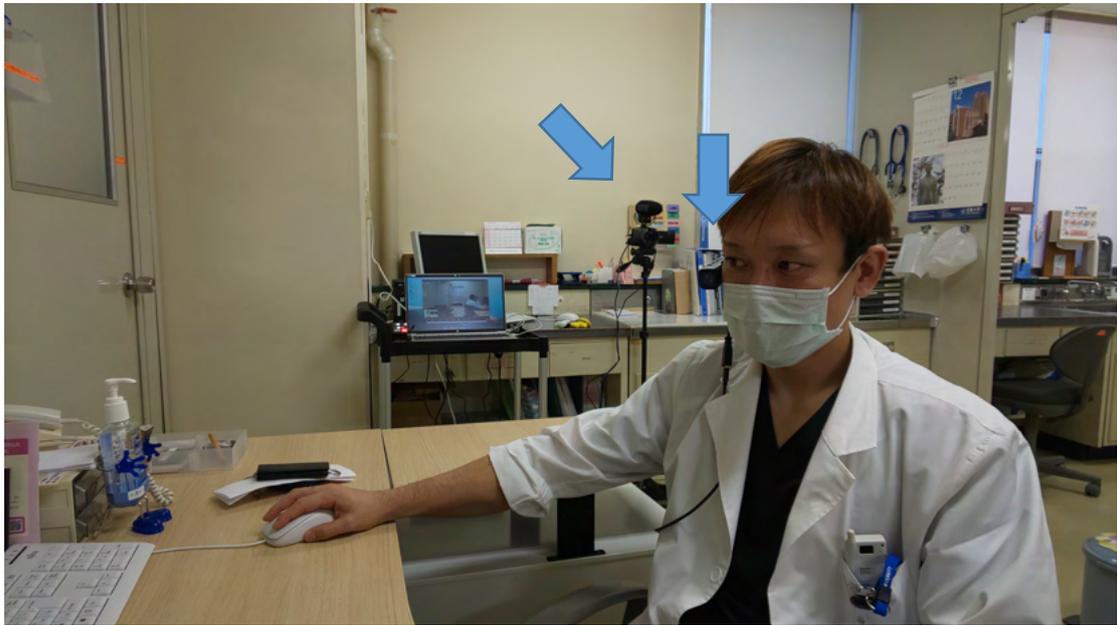
診察室にカメラと
マイクを設置、
診察医の頭部に
ウェアブルカメラを
装着します。



実際の診察室はこのような感じになります。



矢印はウェアブルカメラ、ビデオカメラを指しています。



矢印はウェアブルカメラ、ビデオカメラを指しています。



学生は別室で解説者をつけて見学させていただきます。

記録

画像、音声を
教材化するために
記録させてください。

診察・処置の終了後、
アンケートにご回答ください。



- アンケートは無記名のため、ご回答後に撤回することはできません。
- 記録したものの利用は最長で5年といたします。

見学させていただいた画像・音声をそのまま記録し、編集して教材化します。
このような試みについて見学される側、させていただく側双方にアンケートをさせていただき、有用性を検証したいと考えています。

本研究に関するさらに詳しい内容は研究計画書をご参照ください。

医学部小児科臨床実習における
診察・処置のリモート見学と映像教材化に関する研究

研究計画書

Ver 1.3 (2021年9月6日版)

近畿大学医学部小児科学教室

丸谷 怜

(PHS 5251 mail : s-marutani@med.kindai.ac.jp)

1) 研究の背景

医学部における臨床実習は「クリニカルクラークシップ(診療参加型臨床実習)」であり、各診療科において医療チームの一員として、より実践的な診療能力を身に付けることとなっている。医学生は医療系大学間共用試験を受験し、Student Doctor の法的位置づけを得た後に臨床実習に入る。しかし、これまでは医学生が実際に行える医行為は限りがあり、実際の診療現場で十分な経験を積むのは難しい場合が多く、医療現場に参加しているとはいえ、見学の域を脱しない部分もみられた。それでも患者・家族の医療人育成への理解と医療現場関係者の努力により診療参加型臨床実習を遂行してきた。

しかし、2020年度のコロナ禍により医療現場には厳しい制限が求められ、残念ながら医学生教育は臨床現場から遠ざからざるをえない状況となった。社会生活もソーシャルディスタンスやリモートワークが急速に浸透し、オンライン会議やバーチャル見学会など ICT 技術はそれに伴い飛躍的に普及した。それらと同じく、臨床実習も医療現場での実体験を中心に行うことが本来ではあるが、ICT を活用することで、リアルな臨床実習が難しい場合に、疑似体験としてのバーチャルな臨床実習にて補完することで、より充実した診療参加型臨床実習を行うことができると考えた。

これまで、医療系教育での ICT の活用としては、e-learning 教材や電子ポートフォリオ、手技のライブ中継講義などが行われてきた。近年、ICT のなかでも映像・音声の通信技術は、コロナ禍による急速な発展により、安価で利便性の高い技術となり、一般社会にも広く浸透してきており、小児科診療現場においても、患者・家族にも受け入れられやすい状況になっていると考えられる。

本研究ではこれまでの診療参加型臨床実習に補完的にさまざまな情報を加えることで、これまで以上に充実した臨床実習を目指す。

なお、本研究は、近畿大学 IR・教育改革推進室の「教育改革・学生支援プロジェクト」の一環で「リアル・バーチャル小児科臨床実習プロジェクト」として助成金をうけている事業の一部となっている。

2) 本研究の目的

診療参加型臨床実習において、生の医療現場に入れることができなかつたり、手技施行者の手元に近づくことができなかつたりする場合などに、ICT を活用することで医学生に臨場感を感じられる見学や体験をさせ、患者と学生にアンケートを行い、患者にとって見学者がいるという負担を軽減することができるか、学生にとって有意義な見学となっているかを評価すること。

3) 対象者と実施計画

①患者・家族への説明と同意文書の準備

- ・対象の患者保護者に本研究に関してリーフレット（別添付）を用いて目的と仕組みを説明
- ・同意された保護者より同意文書（別添付）を取得する

【リモート見学・収録の対象患者】

- ・小児科思春期科外来の1か月健診（毎週月曜）を受診する患者
- ・57病棟処置室での処置をうける患者

②小児科臨床実習のオリエンテーションで研究内容を説明

- ・説明は患者用リーフレットを用いて口頭で行う。
- ・アンケートは無記名で、記入をもって研究参加への同意とみなす
- ・学生にとってはアンケートの実施と結果の利用が同意の対象となるため、同意しない場合も実習内容に変更はない

【リモート見学の対象学生】

- ・2021年11月開始予定～2022年3月末の臨床実習I小児科実習生

②対象診療現場にカメラ・マイク端末の設置と見学ブースを設営、担当医はウェアラブルカメラを装着して診察、処置を行う

③学生は見学ブースで担当教員の解説を聞きながら遠隔会議システム（zoom）を通して見学、撮影したものは収録して教材化する

- ・撮影終了まで同意の撤回は可能とする。

④診察、処置終了後に保護者にアンケート調査（無記名、筆記式）

- ・無記名のため、回答後の撤回は不可能とする。

⑤小児科実習期間終了後に学生にアンケート調査（無記名、web回答方式）

⑥2022年3月末日までのアンケート結果を集計、考察

（「リアル・バーチャル小児科臨床実習プロジェクト」が2021年度内のプロジェクトであるため）

【保護者アンケート内容（1 か月健診の保護者用）】

- 1、診察室へのカメラ・マイク、担当医のウェアブルカメラの装着はストレスに感じましたか？（5段階で評価）
- 2、3人の学生が並んで座って見学していると想像すると、今回のリモート見学とどちらがいいですか？（リアルで見学、リモート見学、どちらともいえない）
- 3、今回ご協力いただいた試みについてご意見、ご感想をお聞かせください（自由記載）

【保護者アンケート内容（病棟処置の保護者用）】

- 1、今回の試みについて処置室にお子様を預ける不安は増しましたか？（5段階で評価）
- 2、3人の学生が窓の外に並んで立って見学していると想像すると、今回のリモート見学とどちらがいいですか？（リアルで見学、リモート見学、どちらともいえない）
- 3、今回ご協力いただいた試みについて、ご意見・ご感想をお聞かせください（自由記載）

【学生へのアンケート内容】

- 1、リモート見学は診察の見学としてどうでしたか？（5段階で評価）
- 2、リアルで見学（3人並んで見学し、解説は終了後）と、今回のリモート見学とどちらがいいですか？（リアルで見学、リモート見学、どちらともいえない）
- 3、今回のリモート見学について、ご意見・ご感想をお聞かせください（自由記載）

4) 実施期間

2021年度臨床実習I開始時（2021年11月予定）～2022年3月31日

5) 解析方法

【主要評価項目】

アンケートを集計し、

- ・診察室リモート見学の保護者のストレス度（5段階評価の平均値）
- ・処置室リモート見学の保護者の不安度（5段階評価の平均値）

- ・リモート見学の学生側の充実度（5段階評価の平均値、診察室・処置室別）
 - ・リモート見学の可否
- を算出。

【副次評価項目】

アンケート自由記載

6) データの保管について

- ・専用ノートパソコンを準備し、すべてのデータ（収録画像データ、アンケート結果）を管理、保管する。保管期間は取得後5年間とする）
- ・アンケート結果を紙で回収したものはスキャンしてデータ化し、原本は破棄する。

7) 資料・研究結果の公開について

本計画を含む資料、研究結果は近畿大学医学部小児科学教室ウェブページ内で公開する。また、結果について学会発表、論文投稿も予定している。

8) 研究資金および利益の衝突

研究費は近畿大学 IR／教育改革推進室「教育改革・学生支援プロジェクト」から拠出される。その他の企業・団体と利益の衝突はない。本研究に関わる研究者等の利益相反の管理については、近畿大学医学部利益相反マネジメント委員会の規程に従い、本研究は、同委員会での審査及び承認を得た上で実施する。

9) 担当者

研究責任者 丸谷 怜 （近畿大学医学部小児科学教室 講師）
研究分担者 岡田 満 （近畿大学医学部総合医学教育研修センター 教授）
データ管理責任者、共同解析者
竹村 豊 （近畿大学医学部小児科学教室 医学部講師）
共同実施、共同解析者
小西悠平 （近畿大学病院 NICU 部 医学部講師）
共同実施、共同解析者